



担当：1年4組（森木・中尾）、2年6組（伊比禮・西）

研究を磨く

～2年生中間報告会～



7月14日(水)に2年生はそれぞれの研究の中間報告会を、各分野の教室で行いました。今回の中間報告は、研究計画書を使つての発表形式でした。中間報告を通して、自分のグループの研究の具体的な実験手法が明確でなかったり、調べ学習が不十分だったりしたことに気づけただけでなく、他のグループの報告を聞いて得たことも多くあり、今後の研究に役立てていきたいと考えました。

SSH委員インタビュー

さて今回は、中間報告会を終えた生物グループのリーダーに次の3つの項目のインタビューを行いました。

①どんな研究をするのか。 ②中間報告会を通して気づいたこと。 ③これからどのように改善していくのか。

①「現在日本で大きな社会問題となっている食品ロスを解決する一つの手がかりとするため、家庭から出る野菜の皮やへたなどの廃棄物を利用して、野菜を育てるための肥料を作る研究をしています。」

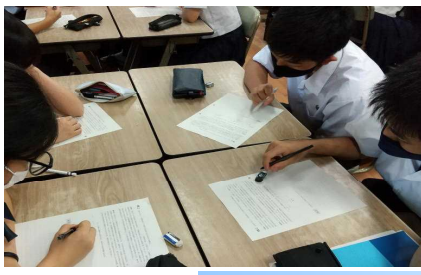
②「実験の基準となる市販の肥料をどんな種類にするのか、野菜の皮はどこから入手するのか、どのくらい野菜の皮を入れるのかが明確でないことに気づくことができました。」

③「グループのメンバーと再度実験内容を確認し、質問やアドバイスを生かして、もう一度調査をしたり、細かい条件設定をしたりしてできる限り課題点をなくし、より説得力のある研究にしていきたいです。」



(2年 伊比禮・西)

本質を見抜く～1年KSWスタート!



7月21日(水)から始まったKSW(甲南サイエンスウィーク)、この日は1年生を対象に「論理的・批判的思考力養成講座」が開講されました。

この講座は与えられた資料の構造を意識しながら、根拠に基づいて多角的に吟味・分析し、批判的な能力を養うことを目的とするものです。

実際に文章を読んで、上記のように4人一組のグループを作り、グループごとに例文を、原因・結果・主張の3つに分けました。こうすることで、文章の論理的構造を理解し、さらには図示をする時の手掛かりになりました。

同じ文章でも様々な意見がでてきてグループの意見をまとめるのが大変でした。また、文章の理解力には差があり、一人の読解では気づけない視点もたくさんあり、グループ活動を行った意義が分かりました。

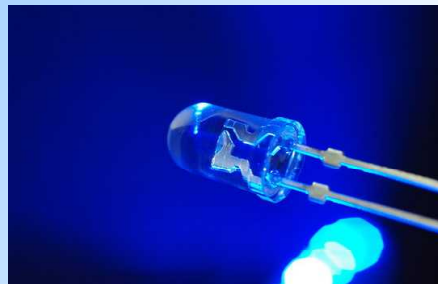


今後研究を進める中で今回の分析の手法を活かしていきたいと思います。

(1年 森木・中尾)

目指せノーベル賞! ①

今回からノーベル賞を受賞された方々と、その研究内容について紹介していきます。



今回は我が甲南高校の先輩である赤崎先生です。先生は青色発光ダイオードの発明でノーベル物理学賞を受賞しました。

この青色発光ダイオードとは、半導体物質を使った素子です。光には三原色があり、青と赤、緑であらゆる色の表現が可能になります。1960年代に赤色、緑色を発光させるダイオードは発明されていましたが、青色を発光させる物質はなかなか見つけられず、20世紀で発明は厳しいとされていましたが、1989年に天野浩先生とともに開発に成功しました。